

統計ふくしま

平成25年度後期号
(平成26年1月)

発行 福島県統計協会
福島市杉妻町2番16号
(福島県統計課内)

電話024-521-7143

FAX024-521-7892

No.225

はじめに

福島県統計協会の事業につきましては、平素より御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

「統計ふくしま」は、「統計思想の普及啓発に寄与する」ことを趣旨とする当協会の設立目的に御賛同いただいている会員の皆様の機関紙として、事業実施状況等をお知らせするため発行しております。平成25年度の事業としまして、これまで実施して参りました福島県統計功労者表彰式、福島県統計グラフコンクール、統計セミナー等の普及啓発事業の主な概要についてお知らせします。

福島県統計功労者表彰式を実施

11月1日(金)、福島市のサンパレス福島において、統計関係者77名が出席し、平成25年度福島県統計功労者表彰式を、福島県と福島県統計協会の主催により実施いたしました。

はじめに、森合正典 福島県企画調整部長から、「本日、栄えある表彰を受けられる皆様、誠におめでとうございます。長年にわたり統計の発展と普及啓発に多大な貢献をいただきました。これまでの御努力と御苦勞に、深く敬意と感謝の意を表します。皆様の日頃の調査は、「福島の今」を正確にとらえ、復興へと繋がる活動の礎となるものがあります。県では、皆様に円滑に統計調査をしていただけるよう、県民の皆様の理解と協力が得られる環境づくりに力を注いでまいります。「ふくしまから はじめよう。」この言葉を合い言葉に、皆様と心をついに復興を加速させてまいりたいと考えておりますので、引き続き御理解、御協力をお願い申し上げます。」との挨拶がありました。

続いて、統計調査に長年にわたり従事し、顕著な功績を上げられた方々の表彰を行いました。森合部長から福島県知事表彰の受賞者15名に対し、表彰状の授与及び、各省大臣表彰を受賞された18名の方に賞状の伝達が行われました。次に、福島県統計協会副会長である

皆川誠司 福島県企画調整部次長から、福島県統計協会名誉会長表彰の代表受賞者7名に表彰状が授与されました。

表彰後、来賓の方々を代表して、立原龍一 福島県議会企画環境委員長と渡辺親子 福島県統計調査員協議会連合会長から祝辞を頂戴いたしました。

その後、全受賞者を代表して、知事表彰を受賞された相馬市の佐藤定一さんから謝辞があり、厳かな雰囲気の中に表彰式は終了しました。



第63回統計グラフコンクールを実施

福島県統計グラフコンクールは、統計知識の普及啓発・統計の表現技術の向上、次代を担う児童、生徒を中心に早い段階から統計に慣れ親しんでもらうことを目的として、昭和25年から実施しており、今年度で63回目を迎えました。



今年は、145点(229人)の応募があり、どの作品も表現力豊かで、作者の創意工夫と熱意が感じられるものばかりでした。

9月11日(水)に開催された審査会において、福島県知事賞4点、福島県教育委員会教育長賞5点、福島県統計協会名誉会長賞14点、佳作12点、努力賞18点を選出しました。また、団体賞として、優秀学校賞に矢吹町立三神小学校、矢吹町立中畑小学校の2校を、奨励学校賞に矢吹町立善郷小学校、矢吹町立矢吹小学校、会津若松市立

謹教小学校、福島市立野田小学校の4校を選出しました。

さらに、この中から特に優秀であった15点の作品を第61回統計グラフ全国コンクールに出品し、入選1作品、佳作4作品が受賞しました。

表彰式は、10月30日(水)に福島市の杉妻会館において、福島県知事賞、福島県教育委員会教育長賞、福島県統計協会名誉会長賞、優秀学校賞及び奨励学校賞の受賞者30名、3団体の皆さんが出席し開催いたしました。



また、入選作品23点については、県内5カ所にて巡回展を開催しています。

開催場所	開催期間
福島県庁舎 2階連絡通路 (福島市)	平成25年11月7日から15日まで
FESTA 2階中通り (郡山市)	平成25年11月19日から28日まで
EVERIA ギャラリーエブリア (いわき市)	平成25年12月2日から11日まで
中合 階段ギャラリー (福島市)	平成25年12月16日から25日まで
矢吹町中央公民館 (矢吹町)	平成26年1月8日から17日まで

入選作品等については、福島県統計情報BOX(ホームページ)に掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

統計セミナーを開催

1月26日(火)、福島市の福島テルサにおいて三井住友アセットマネジメント チーフエコノミスト 宅森昭吉氏を講師に招き、「身近なデータで読み解く経済・金融動向」と題して、身近な現象から景気を読み解く手法、さらには当県の復興状況などについてわかりやすく御講演いただきました。当日は会員の皆様をはじめ、統計調査員、大学生など約90名に参加いただきました。

【講演要旨】

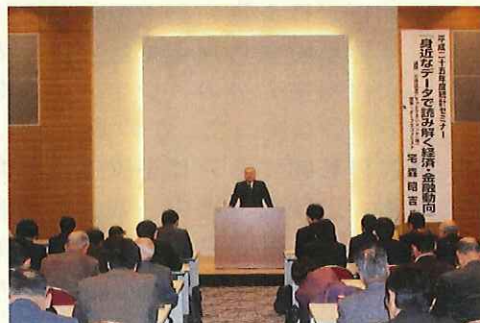
1 福島県の関連データ

(1) 東日本大震災からの復興状況

① 地域経済：「ふくしま産業復興企業立地補助金」を利用し、施設を新設・増設した企業が多く、設備投資が大幅増加。

② 住宅再建：着工率6割と高いが、震災前の居住地ではなく、新しい土地に建築しており、生活基盤のシフト化が進んでいる。

③ 農産物：トマトの全国との相対価格は震災前の水準に近づいている。モモはいまだ震災前の水準を下回っている。



(2) 家計調査から

福島市の全国の県庁所在市における購入上位品目ランキング(H22~H24平均)によると1位は「モモ」、「納豆」、「ハム」である。一方、下位には「えび」、「スイカ」、「バター」、「ソース」、「ケチャップ」がある。意外なものが低い。オムライスなど食べる機会が少ないのかも。逆にいうとこれはビジネスチャンス。機会がないから食べていないと考え、勇気あるお店が出て消費を喚起するということも可能。家計調査を少し眺めるだけで、ビジネスチャンスにつなげられる。これらは総務省HPで誰でもみることができる。

2 今後の経済・金融動向について

為替は緩やかな円安傾向が続く。株価は消費税引上げを受けていったん下がるがそこからまた緩やかに上がる。

アベノミクスの3本の矢(1 金融緩和 2 財政政策 3 成長戦略)で1年目に効果を発揮するのは1と2。問題は1年超である。いかに3により設備投資をやる気にさせられるかどうかにかかっている。

3 景気ウォッチャー調査

日本全国11地域を対象に様々な職種の人2,050人を経済財政担当大臣が任命。毎月回答する景気に関する調査。2011年3月の東北大震災時の調査結果をみると興味深い。東北地方で景気が良くなると回答した人がいたが、人材派遣業であった。損保の臨時求人が出るから景気が良くなると。

一方、沖縄で景気が悪くなると回答した人がいた。地震と関連がない地域で影響がないと思われていたが、全国で旅行自粛モードになってしまい、観光業で成り立っている沖縄は打撃を受けるということであった。意外な盲点であった。

4 身近なデータ

なぜ身近な社会現象を使うのかというと、経済は難しい話だけではなく国民みんなが日々かかわっているものであるから。多くの人が関心を持っている事象などがすごく影響を与える。

(1) オリンピック

1964年の東京大会の開催が決まった1959年5月、景気拡張はその後2年半続

いた。今回も前回同様、2年半ぐらい景気拡張が続く可能性がある。

- ①経済効果・・・2020年までの7年間の経済効果は3兆円とも150兆円とも。
- ②おもてなし・・・日本の文化である和食などを外に発信するよい機会。
- ③株価と連動・・・日本選手が活躍すると株価上昇。

(2)テレビ視聴率

- ①強い女性を描いたドラマが支持される時は景気が悪い局面である。夫の給料が下がり妻が頑張らなくてはと思うのではないか。7～9月期のテレビドラマのうち強い女性が主人公の「ショムニ2013」と「斉藤さん2」に注目。8月、9月と視聴率伸びなかった。この8月、9月の局面は景気が良くなっていたのでジメジメ通り。
- ②NHK朝のテレビ小説で震災直後の「おひさま」、「カーネーション」、「梅ちゃん先生」は戦前・戦中・戦後が舞台で戦中の身内の死を乗り越え戦後の大変な時代を生き抜いていく姿を描いた。見ていて元気づけられた人が多かったはずである。視聴率も良く、この3作品は被災地をどれだけサポートしたことか。
- ③「八重の桜」は残念ながらあまり視聴率が伸びていない。綾瀬はるかさんが熱演していて非常に良いが、幕末を描いたドラマは流行らない傾向がある。考えによっては強い女性が主人公のドラマなので、大ヒットすると景気がよくなるということになる。

(3)B-1グランプリ

楽天の優勝は宮城県を元気づけた。岩手県はNHK朝のテレビ小説「あまちゃん」。福島県を元気づけたのは「なみえ焼きそば」のB-1グランプリ優勝。震災でバラバラになったチームがひとつにまとまって、2011年、2012年と参加し、4位、4位となり今回ついに優勝した。

◆先生は、経済とは難しい話ではなく、人々の普段の活動が寄せ集まったものであり、身近な現象から気楽に考えることができるものであると強調されていました。経済活動の主体は人間であり、経済は人間の感情や行動で成り立っているということがわかり、より経済を身近に感じる事ができた講演でした。

刊行物のご案内

☆好評発売中

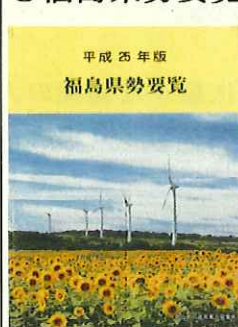
2014年版福島県民手帳 (500円)



県及び県内市町村の統計データや生活に役立つ情報を盛り込んだポケット版手帳です。見やすい月間予定表と日記編、各種便覧、最新の統計資料のほか、別冊には県内郵便番号、県内宿泊施設などが掲載されています。

[8cm × 14cm] (写真は、横野版)

○福島県勢要覧 (1,500円)



福島県の沿革、自然、人口、産業、経済、教育、福祉など県勢全般がわかるコンパクトな総合統計書です。

(わかりやすい図表入り) 県市町村の最新のデータや県内主要年表も掲載しています。

[B6版 308頁]

☆4月販売予定

○第128回福島県統計年鑑

(A4版 450頁、データCD-ROM付き) (6,800円)

○一目でわかる福島県の指標2014

(A5版 162頁) (1,000円)

(問い合わせ先)

福島県統計協会 (福島県統計課内)

電話 024-521-7143